

第12週の発生動向(2006/3/20~2006/3/26)

1. インフルエンザは、上十三保健所管内で引き続き**注意報**が出されています。
2. 伝染性紅斑は、弘前保健所管内で引き続き**警報**が出されています。
3. 流行性耳下腺炎は、上十三保健所管内で引き続き**注意報**が出されています。

第12週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ	60	4.29	31	2.07	41	2.93	6	0.86	112	12.44	15	2.50	265	4.08	-16
(60) 咽頭結膜熱			2	0.22			1	0.20					3	0.07	-2
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	1.00	16	1.78	12	1.33	2	0.40	6	1.00	3	0.75	48	1.14	-1
(62) 感染性胃腸炎	53	5.89	56	6.22	13	1.44	1	0.20	26	4.33	23	5.75	172	4.10	-47
(63) 水痘	12	1.33	12	1.33	15	1.67	3	0.60	7	1.17	9	2.25	58	1.38	13
(64) 手足口病															-5
(65) 伝染性紅斑	4	0.44	27	3.00	1	0.11	6	1.20	9	1.50	3	0.75	50	1.19	-8
(66) 突発性発疹	5	0.56	2	0.22	7	0.78	1	0.20	8	1.33	1	0.25	24	0.57	-1
(67) 百日咳															0
(68) 風しん			1	0.11	1	0.11							2	0.05	1
(69) ヘルパンギーナ															0
(70) 麻疹(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	9	1.00	13	1.44	2	0.22	8	1.60	20	3.33	11	2.75	63	1.50	1
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎					1	0.50			1	0.50			2	0.18	-3

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (小児科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

は警報
  は注意報
 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (18年計には、今回届出された人数を含む)

- (59) RSウイルス感染症(五類定点把握疾患) 弘前保健所管内 : 3人 五所川原保健所管内 : 2人  
 上十三保健所管内 : 2人 (18年計 76人)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類定点把握疾患) 八戸保健所管内 : 2人 (18年計 48人)

感染症の啓

突発性発疹

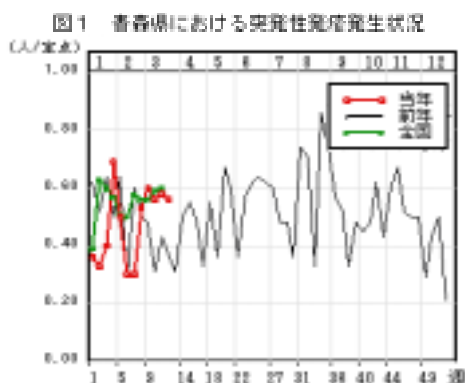


図2 各保健所管内別突発性発疹発生状況



表1 突発性発疹 定点あたり患者発生数

保健所管内	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
八戸保健所管内	0.44	0.44	0.44	0.56	0.56	0.22	0.56	0.33	1.11	0.33	0.56	0.78
上十三保健所管内	0.33	0.50	0.67	1.33	1.33	0.33	0.00	1.17	0.50	1.00	0.83	1.33
全国	0.39	0.63	0.60	0.57	0.51	0.50	0.58	0.56	0.56	0.59	0.60	

突発性発疹は、突然の高熱と解熱に前後して現れる体幹部等の発疹が特徴で、1歳未満の乳児に多くみられるウイルス性感染症です。

青森県における突発性発疹の定点あたりの報告数は、第8週からやや高い値で推移しています(図1)。青森保健所管内及び五所川原保健所管内では平年と同様の推移を示し、弘前保健所管内及びむつ保健所管内では減少傾向にあります。八戸保健所管内及び上十三保健所管内では増加傾向にあります(図2、表1)ので、今後の動向に注意が必要です。